

〔研究ノート〕

録音資料による近代語研究の今とこれから

金澤裕之

キーワード：録音資料、SPレコード、東京落語、大阪落語、演説

要旨

近代語研究の進展に貢献し得る比較的新しい資料に、いわゆるSP(平円盤)レコードを音源とする各種の録音資料がある。しかしこの資料に関しては、言語(特に、話しことば)の研究にとって重要な要素である「音声」を有しているという事実があるにも拘わらず、その活用という点では、必ずしも十分な成果がもたらされていないというのが、客観的に見た現在の状況である。そこで本稿では、録音資料に関するこれまでの経過、並びに、最新のニュースや試みの実態を詳しく伝えるとともに、録音資料のこれからの可能性について言及する。

1 はじめに

「近代語研究の今とこれから」と題する本特集号では、その対象が広義の近代語に関わるものとされ、ここで言う広義の近代語とは、「概略、室町時代以降1945年までの日本語」と指示されている。ここで挙げられている時代のうち、一般に「狭義の近代(語)」と考えられることの多い、明治時代から1945年までの時期において、日本語史研究における比較的新しい資料として考えられているのが、いわゆるSP(平円盤)レコードによる各種の録音資料である。

この資料が、日本語史研究の分野で実質的に活用され始めたのは、凡そ1980年代の初頭であると考えられ、現在に至るその歴史はたかだか30年ほどのことに過ぎない。本稿では、一旦その間の資料や研究における歴史を振り返ってみるとともに、録音資料に関する現在の状況について説明を加えた上で、同資料が持つ将来の可能性についても言及してみたい。

2 録音資料と近代語研究

録音資料そのものや、それを活用した研究について解説した文献としては、1980年代の後半から2000年にかけて比較的続けて発表された、次の四つの論文(発表順)が

日本語の研究

第11巻2号

特集：近代語研究の今とこれから

中世末のテアル文にみられる完成の用法について……………	神永 正史
副詞「どうぞ」の史の変遷——副詞からみた配慮表現の歴史、 行為指示表現の歴史——……………	川瀬 卓
雑誌『太陽』『明六雑誌』における程度副詞類の使用状況と 文体的傾向……………	市村 太郎
四字漢語の語構成パターンの変遷……………	朱 京偉
近代新漢語の基本語化における既存語との関係 ——雑誌コーパスによる「拡大」「援助」の事例研究——……………	田中 牧郎
漢語サ変動詞に見る近代語と現代語 ——コーパスを通しての考察——……………	庵 功雄・張 志剛
国語調査委員会による音韻口語法取調の現代的価値 ——岩手県の第二次取調稿本の分析を事例として——……………	竹田 晃子
節用集の辞書史的研究の現況と課題……………	佐藤 貴裕
〔研究ノート〕	
録音資料による近代語研究の今とこれから……………	金澤 裕之
《資料・情報》	
明治末・大正・昭和前期のSPレコード資料一覧 ——東京落語・大阪落語・演説講演分——……………	金澤 裕之
〔書評〕	
佐藤 亨著『現代に生きる日本語漢語の成立と展開 ——共有と創生——』……………	陳 力衛
山橋幸子著『品詞論再考——名詞と動詞の区別への疑問——』 ……………	村木新次郎

日本語学会 2014 年度秋季大会シンポジウム報告

日本語学会

主なものとして挙げられる。

A: 清水康行「東京語の録音資料——落語・演説レコードを中心として——」

『国語と国文学』第65巻第11号、1988年11月

B: 清水康行「録音資料の歴史」 『日本語学』第15巻第5号、1996年5月

C: 井上史雄「近代の言語変化——音声資料の活用——」

『日本語学』第17巻第6号、1998年5月

D: 金沢裕之「録音資料の歴史とその可能性」

『日本語学』第19巻第11号、2000年9月(増刊)

これらのうち、Bは機器や装置といった主に機械的な面に焦点を当てて録音資料の歴史について説明しているのに対し、他の三つは、主に録音資料そのものやそれを活用した研究について述べているものと考えられるので、両者を一応分けた形で、その主な章立てを紹介する^{注1}。

B: 1 錫箔式円筒蓄音機の発明 2 蠟管式円筒蓄音機の登場 3 円盤式レコードの上陸 4 ラジオ放送と電気録音の開始 5 テープレコーダーの実用化 6 デジタルの時代 7 録音資料の保存と公開

A: 1 言語史資料としての録音資料 2 東京落語レコード資料群の概要 3 演説レコード資料群の概要 4 演説レコードの用途と言語 5 その他の録音資料 6 録音資料の保存と公開

C: 1 近代語の範囲 2 言語変化のタイムスパン 3 近代語の先行研究 4 録音資料の活用 5 オッペケペー CD の概要 6 オッペケペー CD の音声イェ [je] 7 近代の言語変化

D: 1 はじめに 2 録音資料の歴史 3 研究の具体例 ①井上史雄による「オッペケペー」の分析 ②清水康行による東京落語資料の分析 ③中井幸比古による大阪語の音韻・アクセントの分析 ④金沢裕之による大阪落語資料の分析 ⑤清水康行による演説レコードの分析 4 おわりに(録音資料の可能性)

Bの場合、主に機械的な側面は措くとして、その他の三つの文献を総合的に見てみると、これらの中で言語研究の資料として活用されているものとしては、凡その録音年代順に、(1)オッペケペー(≒大衆歌謡と語り物など)、(2)東京落語、(3)大阪落語、(4)演説、(5)その他、の5種類が挙げられる。

ただし、この5種類のうち(1)のオッペケペーの録音は、1900年8月末にパリ万博を訪れた川上音二郎一行がパリのレコード会社スタジオで吹き込んだことが判明しており、一般的な日本人のこことばによる音声録音の最初のものとしての価値は大きい^{注2}、資料全体としては歌謡や語り物の部分が中心となる1時間程度のものであり、言語研究

に広く利用するための資料としては、量的な面での不足が指摘される。また、(5)の「その他」に含まれるものとしては、国定読本の標準朗読レコードや国会の議事記録レコード・日本語教育用レコードなどが挙げられるが、これらについては、資料の全貌が明らかにされていないことや資料性の検討が進んでいないことなどから、日本語史的な面からの活用という点では未だ不十分な部分が多いのではないかと考えられる。

そうした結果、現在までの研究の蓄積をも含めて、近代語研究と深い関わりを持ち得るものとしては、(2)東京落語、(3)大阪落語、(4)演説という3種類の録音資料が、今後もさらに活用することが可能な資料群として期待されるところが少なくないと言える。

3 録音資料に関する現在の状況

以下では、前節での考察を踏まえた上で、録音資料としては「東京落語」「大阪落語」「演説」の3種類を対象を絞って、話を進めてゆくことにする。

これらの録音資料群は、言うまでもなく、資料的な面での偏りや量的な面での(ある程度の)制限があり、必ずしも十全な資料であるとは言えないが、その一方で、言語(特に、話しことば)の研究において最重要な要素と言っても過言ではない「音声」を有しているという点で、資料的な価値という面では、当初からかなり高く評価されてきたと思われる。ただし、録音資料に関する実際の活用という点に目を向けてみると、先に文献で挙げた2000年前後以降の十数年の研究状況においては、「全体として十分には活用されていない」というのが客観的な事実であろう。そして、こうした現況を生み出している最大の要因は、資料そのものやその文字化などが殆ど公開されるものとなっていないという点にあると思われる^{注3}。

そうした中で、唯一の例外として往々取り上げられたり利用されたりしているものとして、「大阪落語」に関する次の資料がある。

真田信治・金沢裕之『二十世紀初頭大阪口語の実態——落語 SPレコードを資料として——』

(平成二年度科研費報告書、1991)

これは、明治末～大正期に発売された大阪落語の33作品(時間にして約2時間分)を文字化した資料であるが、これを主に文法的な面から活用している研究としては、文字化を担当した金沢本人、並びに、矢島正浩や村上謙の諸氏による一連の研究^{注4}を初めとして、金水(2006、2011)、宮地(2007)などが挙げられる。また、同じ(大阪落語の)資料をアクセントや音韻の面から分析した資料として、次のものも公にされている。

金沢裕之・中井幸比古『初期落語 SPレコードの大阪アクセント——資料と分析——』

(平成十年度科研費報告書、1998)

それに対して、先にも挙げた「東京落語」「演説」に関しては、現在までに(カセットテープやCDのような形で、)復刻版として市販されたものとしての音声資料以外には、

一般の研究者に開かれたものは殆ど無いというのがこれまでの実状であった。

こうした、謂わば停滞したとも言える状況の中で、「一石が投げられた」と言ってもいいような状況の変化が生まれたのが、2010年のことである。この年、日本屈指のSP（平円盤）レコードコレクターである岡田則夫氏による貴重な収集音源が、デジタル化された形で、次のような名称のもとに市販されたのである^{注5}。

SP 盤貴重音源 岡田コレクション

〔学術研究用デジタル音源集〕〔販売：日外アソシエーツ株式会社〕

この資料は、パンフレットの言葉をそのまま引用すれば、「政治家、軍人、実業家、教育者、文化人などの演説・講演・講話・朗読などを集めた『演説集』」ということになり、全体としては165の作品群^{注6}で、録音時間にすると約18.5時間分に相当するものである。以下に、パンフレットを参考にして、その内容の概略を紹介してみよう。

- A0001 ◇政治家編 大正期～昭和初期 I (14作品 約156分)
〔尾崎行雄、大隈重信、島田三郎、永井柳太郎、など〕
- A0002 ◇政治家編 大正期～昭和初期 II (17作品 約118分)
〔田中義一、後藤新平、浜口雄幸、犬養毅、など〕
- A0003 ◇政治家編 大正期～昭和初期 III (17作品 約138分)
〔松岡洋右、岡田啓介、高橋是清、町田忠治、など〕
- A0004 ◇政治家編 昭和期 (20作品 約153分)
〔安達謙蔵、田澤義鋪、近衛文麿、中野正剛、など〕
- A0005 ◇軍人編 昭和期 (19作品 約161分)
〔長岡外史、東郷平八郎、東條英機、平出英夫、など〕
- A0006 ◇実業家・教育者編 大正期～昭和期 (15作品 約97分)
〔渋沢栄一、牧野元次郎、成瀬達、星一、など〕
- A0007 ◇明治期～昭和初期の『言葉』I 言語教育 (20作品 約96分)
〔穂積陳重、高田早苗、下田歌子、児童生徒、など〕
- A0008 ◇明治期～昭和初期の『言葉』II 自作朗読 (9作品 約52分)
〔巖谷小波、菊池寛、坪内逍遙、北原白秋、など〕
- A0009 ◇明治期～昭和初期の『言葉』III 実況ほか (24作品 約51分)
〔杉村楚人冠、野間清治、竹脇昌作、徳富猪一郎、など〕
- A0010 ◇明治期～昭和初期の『言葉』IV 法話・説教 (10作品 約91分)
〔大谷光演、山室軍平、田中智学、賀川豊彦、など〕

こうした「演説」の録音資料に関しては、すでに1980年代後半、清水康行氏による一連の研究が発表されており（「参考文献」参照）、資料の概要や、特に合拗音に関する詳細な分析が行なわれている。しかし、それ以降の二十年間余り、演説資料を主に研究対象とした発表は殆ど行なわれておらず、資料そのものについても、特に目立った言及

はなかったと言える。

また、先に挙げた『SP 盤貴重音源 岡田コレクション』に記載された内容は、その主なものについては、これもまたすでに清水氏の論考の中で紹介されたり触れられたりしていたものであったが^{注7}、資料そのものの具体的な内容や文字化は発表されていなかったため、この2010年の市販により、一般にも公開される形となったのである。

この資料（通称：岡田コレクション）について、本稿の筆者は、その発売時頃よりメンバーに加わっていた国立国語研究所における一つの共同研究プロジェクト^{注8}のリーダーや参加者と相談した上で、岡田氏および販売元である（株）日外アソシエーツと協議を重ね、上記の全資料（音源）を購入するとともに、言語研究の基礎的な資料とするために、その全ての文字化を行なう許諾を得た。そしてすでに、その全ての分の文字化を、他のメンバーによる確認作業を経た上で終了している^{注9}。この文字化資料に関しては、遠くない将来に何らかの形で一般の研究者に広く公開したいと現在考えている。

一方、「東京落語」の音声資料に関しては、こちらについても、清水康行氏による1980～90年代の一連の論考（詳細については、上記A・B・Dを参照）以来、それを活用した研究や発表は、限られた一部を除いて殆ど行なわれてはいないように思われる。なお、こちらの資料に関しても本稿の筆者は、現在までに市販されたものをある程度の量で入手しているのに加えて、その他独自のルートによって収集したのものもあるので、次なる課題として、それらの全資料の文字化・公開にも取り組みたいと考えている^{注10}。また、「大阪落語」に関しても、先に挙げた真田・金沢（1991）の中で文字化されている33作品以外にも、同時代の作品の（追加的な）資料をある程度の数で収集しており、同様に全資料の文字化・公開に取り組む予定である^{注11}。

4 これからの可能性

以上見てきたように、現時点では研究の進展が停滞しているとも言える録音資料による近代語研究であるが、まずは3種類の主要な資料（東京落語、大阪落語、演説・講演）の文字化公開などをきっかけとして、これからの進展が期待される。そして仮に、「音声」そのものを直接分析できるような何らかの方策が今後確立されてくるとするならば、研究進展への寄与はさらに大きくなるものと予想される。最後に、そうした場合に期待される研究の方向性を、いくつか列挙してみることにしよう。

まず一つ目は、すでに真田・金沢（1991）の活用に見られるような日本語史の分野における利用で、対象分野は必ずしも文法面だけには留まらず、広く語彙・意味の分野や、さらには、文章・談話・待遇表現などの方面においても、広範な利用の可能性がある。

また二つ目としては、録音資料の中の大きな種類として落語と演説という、本質的に性格の異なる言語行動が含まれていること^{注12}や、落語の中にも、東京（江戸）のものと大阪（上方）のものという、基盤となる言語を異にする2種類が存在することから、

位相的な面からのさまざまなアプローチも次なる試みの対象となり得るだろう。

さらに三つ目として、録音資料の「音声」そのものに対する分析が実現するようになれば、すでに挙げた清水康行氏による合拗音の研究を一つの手本として、音声・音韻の分野からの各種アプローチも視野に入るものと考えられ、近代語研究という広大なフィールドに対して、多様な面からの貢献をなし得る存在ともなる可能性を秘めていると言えよう^{注13}。

注1 読者への便宜のために章や節の数字の形式を一部変更し（例：漢数字⇒算用数字、など）、全体を概観しやすくした。

注2 因みに、本文の中で後に言及する東京落語や大阪落語の録音資料の場合は、明治36（1903）年以降に日本国内で吹き込まれたものである。

注3 ただし、こうしたSPレコードによる録音資料の場合、音声そのものについては、音盤の（現）所有者であるSPレコード収集家の方々が実質的な版權所有者に当たると解釈するのが一般的な考え方であるため、音声そのものの公開については、簡単に実現するわけではないことをここに付け加えておく。

注4 参考文献を参照のこと。なお、このうちの村上（2010）においては、本文で先に掲げた真田・金沢（1991）の大阪落語（SP盤）文字化資料について、その資料的な価値に対して一定の疑義を保持しつつ他の資料（＝上司小剣の小説作品）との比較・検討が行なわれているが、その結論は次の通りである。

・ところで、これまでSP盤は「一級資料」として用いられてきたが、実はその資料性は子細に検討されぬままであった。しかし、SP盤が落語という「型」の影響を受けやすいジャンルであることを考えると、一級であるかどうかは本来、疑問符がつけられるべき資料群であった。今回、小剣作品と比較検討することによって（個別的な問題はあっても）、SP盤の資料性も逆に保証されたと言えるだろう。〔同書、415頁〕

注5 この資料に関しては、インターネット上に同名のウェブサイトが存在し、そこでは、ほとんどの音源について、冒頭の一部分を試聴することが可能である。

注6 SP（平円盤）レコード資料の数え方に関しては、「音源」という数え方が従来一般的であるが、「音源」の場合の実質的内容については二つの捉え方があり得、①1枚分（片面では約3分、両面では約6分程度）と考えるか、②1作品（落語や演説において、1枚の片面や両面で完結する場合もあるが、数枚分の両面で完結する場合も少なくない）と考えるかで数の数え方が異なってくる可能性があるため、そうした混乱を避けるために、本稿では「作品」の方を使用することとする。なお、その結果として1作品の時間的な長さは、短いもので1分程度から長いものでは30分近いものまでかなり多様であるが、そのうちの多くのものは3～6分程度（＝レコード1枚分に相当）の作品である。

注7 清水氏の場合、各種音声資料の収集は、先に挙げた岡田則夫氏の先達に当たる都家歌六師匠（落語家で、ミュージカル・ソー（鋸音楽）の演奏者としても著名）から提供されたものを中心として、その他各種のルートからのものであると考えられる。因みに、都家歌六師匠には、都家（1987）という落語SPレコードの全貌をほぼ明らかにする貴重な文献がある。

注8 国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクト「多角的アプローチによる現代日本語の動態の解明」（プロジェクトリーダー：相澤正夫）

注9 この文字化資料は、漢字かな混じり表記（1行アケ）のA4判で550頁余り。概算の文字数にして、40万字前後の量となる。なお、具体的な講演者〔生没年〕と作品名（＝演題）については、本誌別稿の《資料・情報》を参照のこと。因みに、演説・講演の場合、一部の例外を除いて明治期の音声資料は存在していない。また、この資料を書籍の形にほぼ纏め直したものが、金澤・相澤（2015予定）という形で近日中（4月末）に刊行予定である。

注10 演者〔生没年〕と作品名については、注9と同様に《資料・情報》を参照のこと。ただし、生没年に関しては、諸説ある場合も存在する（次の注11の場合も同様）。

注11 演者〔生没年〕と作品名については、注9と同様に《資料・情報》を参照のこと。なお、大阪落語の場合に、（東京落語の場合とは異なり、）大正期の作品も対象に含めているのは、明治期の作品の数が相対的に少ないためである。

注12 清水康行氏は、第59回近代語研究会（1988.5.20、於：国学院大学）において「演説レコード資料の可能性」と題して行った発表のレジュメの中で、両者の言語資料的性格について次のように纏めている。〔なお、ここでの落語資料は東京に限定されている。また、項目の一部を省略する。〕

「演説レコード」

@表現の場面 : 公的演説（一方的、堅い表現）
 @想定聴取者 : 不特定多数 or 支持選挙民
 @演説者の階層 : 社会的指導者層（主に政治家）
 @演説者の出身地 : さまざま（東京以外が多い）
 @文字言語の介在 : 原稿用意・持込みの可能性

cf. 「東京落語レコード」

大衆芸能（くだけた会話形式）
 不特定多数 or 虜員客
 寄席芸人
 ほぼ江戸・東京
 定型の原稿・脚本なし

注13 注8で挙げた国立国語研究所のプロジェクトでは現在、演説・講演資料を研究対象として、そうした多様な面からのアプローチを集めた論文集の作成が、具体的な形で計画されている。

参考文献

- 井上史雄（1998）「近代の言語変化——音声資料の活用——」（『日本語学』17-6）
 金沢裕之・中井幸比古（1998）『初期落語SPレコードの大阪アクセント——資料と分析——』平成十年度科研費報告書
 金沢裕之（1998）『近代大阪語変遷の研究』和泉書院
 金沢裕之（2000）「録音資料の歴史とその可能性」（『日本語学』19-11）
 * 金澤裕之・相澤正夫（2015予定）『大正・昭和戦前期 政治・実業・文化 演説・講演集——SPレコード文字化資料——』日外アソシエーツ
 金水敏（2006）『日本語存在表現の歴史』ひつじ書房
 金水敏（2011）「第3章 統語論」（『シリーズ日本語史3 文法史』岩波書店）
 真田信治・金沢裕之（1991）『二十世紀初頭大阪口語の実態——落語SPレコードを資料として——』平成二年度科研費報告書
 清水康行（1988）「東京語の録音資料——落語・演説レコードを中心として——」（『国語と国文学』65-11）
 清水康行（1989a）「録音資料で聴く過去の音声の実例——二十世紀早期演説レコードの合拗音を例

に——(『国文学解釈と鑑賞』54-1)

清水康行(1989b)「二十世紀早期の演説レコード資料群に聴く合拗音の発音」(『国語国文学(名古屋大学)』64)

清水康行(1996)「録音資料の歴史」(『日本語学』15-5)

都家歌六(1987)『落語レコード八十年史(上・下)』国書刊行会

宮地朝子(2007)『日本語助詞シカに関わる構文構造的的研究』ひつじ書房

村上謙(2003)「近世後期上方における連用形禁止法の出現について」(『国語と国文学』80-12)

村上謙(2010)「明治大正期関西弁資料としての上司小剣作品群の紹介および否定表現形式を用いた資料性の検討」(『近代語研究』第15集、武蔵野書院)

村上謙(2012)「明治期関西弁におけるヘンの成立について——成立要因を中心に再検討する——」(『近代語研究』第16集、武蔵野書院)

矢島正浩(2013)『上方・大阪語における条件表現の史的展開』笠間書院

——横浜国立大学教授——

(2014年9月9日 第1稿受理)

(2015年1月19日 最終稿受理)

《資料・情報》

明治末・大正・昭和前期のSPレコード資料一覧

——東京落語・大阪落語・演説講演分——

金澤裕之

以下に示すのは、本誌に掲載の研究ノート「録音資料による近代語研究の今とこれから」において言及している録音資料の一覧である。〔順序は、基本的に口演者の生没年順〕

【東京落語】

- ・三遊亭圓遊〔嘉永三 1850～明治四〇 1907〕「野ざらし(2:57)」「成田小僧(3:16)」「菅原息子(3:04)」「寿司屋の噺(1:22)」「地獄めぐり(1:22)」「郭巨の釜の唄(1:46)」「湯屋番の鼻唄(1:17)」「裁判の噺(1:53)」「太鼓の当込(2:39)」「地獄旅行(2:58)」「山号寺号(2:45)」
- ・④柳亭左楽〔安政三 1856～明治四四 1911〕「地口(3:23)」
- ・③柳家小さん〔安政四 1857～昭和五 1930〕「豊竹屋(2:56)」「小言幸兵衛(3:19)」「みかんや(2:19)」「浮世風呂(2:10)」「葛の葉拔裏(2:00)」「九年母(2:06)」「二階ぞめき(2:22)」「出入帳(2:37)」「浮世風呂(5:10)」「豊竹屋(5:16)」「生酔(5:23)」「粗忽長屋(4:34)」「花色木綿(5:41)」「嘘つき(5:17)」「鉄砲弥八(6:36)」「山号寺号(6:11)」「六尺棒(6:29)」「夜鳴きうどん(6:32)」「成田屋息子(3:21)」「浮世風呂(3:49)」「高砂や(3:33)」「千早振(13:46)」「うどんや(4:28)」
- ・⑥朝寝坊むらく〔安政六 1859～明治四〇 1907〕「塩原多助伝(3:22)」「士族の商法(3:11)」「角力将棋の噺(1:34)」「田舎下男(1:59)」「書生幽霊(2:03)」「世辞の悪い権助(2:51)」
- ・三遊亭圓右〔万延一 1860～大正一三 1924〕「アズサメ(3:05)」「向嶋(1:55)」「仏教の笑(2:00)」「楽屋の穴(1:33)」「まくらや(6:05)」「動物園もぐら芝居(6:42)」「焙じ茶(6:37)」「掛取万歳(6:12)」「鍋草履(6:43)」
- ・三遊亭小遊三〔文久一 1861～ ? 〕「音曲入噺ツッコケ(2:50)」「雷獣鍋(2:01)」「菅原息子(3:01)」
- ・③古今亭志ん生〔文久三 1863～大正七 1918〕「昔話田舎者(2:14)」
- ・③蝶花樓馬楽〔元治一 1864～大正三 1914〕「長屋の花見(3:11)」「寿限無(2:08)」
- ・④橘家圓蔵〔元治一 1864～大正一一 1922〕「吉原一口噺(2:43)」「昔の三題噺大根売(1:51)」
- ・④橘家圓喬〔慶応一 1865～大正一 1912〕「菖蒲売の噺(2:53)」「曾我打丸小噺(1:18)」「大学 手と足の喧嘩(1:39)」「三題噺佃嶋ほか(1:42)」「角力の噺(2:02)」「柿と栗の喧嘩(1:53)」「魚売人(3:13)」「付焼刃(3:08)」「癖(3:17)」

- ・②三遊亭圓遊〔慶応三 1867～大正一三 1924〕「素人車 (2:47)」
- ・柳家小せん〔明治一六 1883～大正八 1919〕「専売芸者 (5:18)」

【大阪落語】 ※真田・金沢 (1991) に文字化されている分については、作品名を斜体で示す。

- ・②曾呂利新左衛門〔弘化一 1844～大正一二 1923〕「馬部屋 (2:52)」「サツマ県のおまわり (2:49)」「湯屋 (2:37)」「盲目提灯 (2:56)」「後へ心がつかぬ (3:25)」「銚泥棒 (3:13)」「恵美須小判 (2:39)」「日と月の下界旅行 (3:04)」「動物博覧会 (2:49)」「絵手紙 (5:14)」
- ・②桂文枝〔弘化二 1845～大正五 1916〕「近江八景・小噺 (2:05)」「たん医者 (2:42)」「近日息子 (5:11)」
- ・③桂文團治〔安政三 1856～大正一三 1924〕「儉約の極意 (2:23)」「芝居の小噺 (2:54)」「四百ブラリ (6:28)」
- ・③桂文三〔安政六 1859～大正六 1917〕「天神橋 (2:30)」「滑稽日露戦争の噺 (1:43)」「漆山角力の噺 (2:52)」「善は急げ (2:56)」「学者と魚売人 (2:57)」「豊竹屋節右衛門 (3:06)」「写真屋 (2:08)」
- ・桂枝雀〔元治一 1864～昭和三 1928〕「亀屋左兵衛 (2:53)」「蛸と猫 (2:24)」「嫌い嫌い坊主 (3:09)」「煙管返し (3:09)」「蛸の手 (3:13)」「芋の地獄 (3:01)」「いびき車 (2:31)」「さと坊主 (7:24)」
- ・桂枝太郎〔慶応二 1866～昭和二 1927〕「雷の禪 (6:07)」
- ・②林家染丸〔慶応三 1867～昭和二七 1952〕「日和違い (5:56)」「親子酒 (6:57)」「電話の散財 (14:29)」
- ・桂文雀〔明治二 1869～昭和一九 1939〕「長屋議会 (6:12)」「口あい小町 (6:06)」「狐釣り (7:43)」「滑稽女子〈おなご〉大学 (7:37)」
- ・④松福亭松鶴〔明治二 1869～昭和一九 1942〕「一枚起請 (2:43)」「魚づくし (2:46)」「竹の子 (2:20)」「平の蔭 (2:43)」「愛宕参り (2:42)」「神戸飛脚 (3:04)」「やいと丁稚 (6:30)」「浮世床 (6:46)」「天王寺名所 (6:21)」「理屈あんま (6:37)」
- ・③桂米團治〔明治二 1869～昭和一九 1943〕「大安売り (7:12)」「ぬの字鼠 (7:38)」

【演説・講演】

- ・大隈重信〔天保九 1838～大正一一 1922〕「憲政ニ於ケル輿論ノ勢力 (17:13)」
- ・渋沢栄一〔天保一一 1840～昭和六 1931〕「第七十五回誕辰祝賀会 (5:38)」「御大礼ニ際シテ迎フル休戦記念日ニ就テ (11:34)」「道德経済合一説 (11:11)」
- ・東郷平八郎〔弘化四 1848～昭和九 1934〕「連合艦隊解散式訓示 (6:13)」「軍人勅諭奉戴五十周年記念 (6:35)」「日本海海戦 第一報告と信号 (1:05)」「軍人勅諭 (0:47)」「三笠艦保存記念式祝辞 (1:49)」

- ・島田三郎〔嘉永五 1852～大正一二 1923〕「非立憲の解散・当路者の曲解 (18:25)」
- ・高橋是清〔嘉永七 1854～昭和一一 1936〕「金輸出再禁止に就て (10:44)」
- ・下田歌子〔嘉永七 1854～昭和一一 1936〕「皇太子殿下ご誕生を祝し奉る (13:39)」「喜寿記念碑除幕式に際して所感を述ぶ (5:03)」
- ・犬養毅〔安政二 1855～昭和七 1932〕「強力内閣の必要 (4:09)」「新内閣の責務 (5:53)」
- ・穂積陳重〔安政三 1856～大正一五 1926〕「法律の進化 (5:37)」
- ・佐藤範雄〔安政三 1856～昭和一九 1942〕「普通選挙国民覚醒 (4:44)」
- ・後藤新平〔安政四 1857～昭和四 1929〕「政治の倫理化 (12:53)」
- ・長岡外史〔安政五 1858～昭和八 1933〕「飛行機の大進歩 (7:08)」「太平洋横断に際し全国民に懇ふ (3:25)」
- ・斎藤実〔安政五 1858～昭和一一 1936〕「憲政の一新 (2:40)」
- ・尾崎行雄〔安政五 1858～昭和二九 1954〕「司法大臣尾崎行雄君演説 (28:09)」「普選投票に就て (21:31)」「正しき選挙の道 (7:17)」
- ・高田早苗〔安政七 1860～昭和一九 1938〕「新皇室中心主義 (5:59)」
- ・木村清四郎〔文久一 1861～昭和九 1934〕「私の綽名『避雷針』の由来 (7:06)」
- ・田中智学〔文久一 1861～昭和一九 1939〕「教育勅諭の神髄 (19:23)」
- ・有馬良橘〔文久一 1861～昭和一九 1944〕「国民精神総動員の強調の記念録音レコード (5:26)」
- ・徳川家達〔文久三 1863～昭和一九 1940〕「済生会の使命に就いて (3:28)」
- ・阪谷芳郎〔文久三 1863～昭和一九 1941〕「人間一生の信念 (5:09)」
- ・町田忠治〔文久三 1863～昭和二一 1946〕「総選挙ニ際シテ国民ニ懇フ (5:26)」「政界の浄化 (3:02)」
- ・青木庄蔵〔文久三 1863～昭和二二 1947〕「国家的禁酒注意 (5:36)」
- ・徳富猪一郎〔文久三 1863～昭和三二 1957〕「ペルリ来航の意図 (10:39)」
- ・田中義一〔元治一 1864～昭和四 1929〕「護国の礎 (6:48)」「国民ニ告グ (5:50)」
- ・安達謙蔵〔元治一 1864～昭和二三 1948〕「選挙粛正と政党の責任 (3:14)」「地方政戦に直面して (12:37)」
- ・安部磯雄〔元治二 1865～昭和二四 1949〕「選挙粛正と政府の取締り (3:03)」
- ・木下成太郎〔慶応一 1865～昭和一九 1942〕「御挨拶に代へて (6:47)」
- ・小泉又次郎〔慶応一 1865～昭和二六 1951〕「理由ナキ解散 (6:40)」
- ・矢野恒太〔慶応一 1866～昭和二六 1951〕「人生のゴール (5:53)」
- ・佐々木清麿〔慶応二 1866～昭和九 1934〕「仏教講演俗仏 (17:51)」
- ・広池千九郎〔慶応二 1866～昭和一九 1938〕「モラロジー及び最高道徳の特質 (6:17)」
- ・松井茂〔慶応二 1866～昭和二〇 1945〕「『火の用心』の講演 (3:12)」
- ・若槻礼次郎〔慶応二 1866～昭和二四 1949〕「総選挙に臨み国民に懇ふ (6:51)」「地

- 方政戦に直面して (7:51)】
- ・武藤山治〔慶応三 1867～昭和九 1934〕「政党ノ政策ヲ確ムル必要 (6:06)】
- ・頼母木桂吉〔慶応三 1867～昭和五 1940〕「総選挙ニ直面シテ (4:56)】
- ・小笠原長生〔慶応三 1867～昭和三五 1958〕「日本海海戦に於ける東郷大将の信仰 (6:35)】「乃木將軍の肉声と其想出 (2:55)】
- ・岡田啓介〔慶応四 1868～昭和二七 1952〕「総選挙に際して (7:36)】「愛国の熱誠に懇ふ (3:21)】
- ・宇垣一成〔慶応四 1868～昭和三一 1956〕「伸び行く朝鮮 (3:11)】
- ・井上準之助〔明治二 1869～昭和七 1932〕「危ない哉！国民経済 (6:31)】「地方政戦に直面して (7:02)】
- ・増田義一〔明治二 1869～昭和二四 1949〕「立候補御挨拶並ニ政見発表 (12:28)】
- ・浜口雄幸〔明治三 1870～昭和六 1931〕「経済難局の開閉について (19:34)】
- ・山本悌二郎〔明治三 1870～昭和一二 1937〕「対英国民大会 (25:36)】
- ・津下紋太郎〔明治三 1870～昭和一二 1937〕「石油事業について (3:08)】
- ・加藤寛治〔明治三 1870～昭和一一 1936〕「日本の軍人は何故強いのか (6:05)】
- ・服部三智麿〔明治三 1870～昭和一九 1944〕「真宗の安心 (5:34)】
- ・弘世助太郎〔明治四 1871～昭和一一 1936〕「我等の覚悟 (3:23)】
- ・山室軍平〔明治五 1872～昭和一一 1936〕「世界を神に (3:20)】
- ・杉村楚人冠〔明治五 1872～昭和二〇 1945〕「湯瀬の松風 (2:37)】
- ・星一〔明治六 1873～昭和二六 1951〕「ホシチェーン会議に於ける星先生の講話 (12:50)】
- ・加藤直士〔明治六 1873～昭和二七 1952〕「皇太子殿下御外遊御盛徳謹話 (6:40)】
- ・内田良平〔明治七 1874～昭和一二 1937〕「日本の天職 (6:36)】
- ・牧野元次郎〔明治七 1874～昭和一一 1936〕「神守不動貯金銀行 (5:08)】「貯金の三徳 (4:45)】「ニコニコの徳 (5:41)】「良心運動の第一声 (10:48)】
- ・芳澤謙吉〔明治七 1874～昭和四〇 1965〕「対支政策 (4:38)】
- ・松田源治〔明治八 1875～昭和一一 1936〕「拳国一致ノカラ以ッテ難局ヲ打開スベシ (5:50)】
- ・大谷光演〔明治八 1875～昭和一一 1936〕「戦いなき世界への道 (6:39)】
- ・高原操〔明治八 1875～昭和一一 1936〕「訪欧大飛行航空講演 (3:34)】
- ・林銑十郎〔明治九 1876～昭和一一 1936〕「国民諸君ニ告グ (6:12)】
- ・永田秀次郎〔明治九 1876～昭和一一 1936〕「総選挙に就て (3:12)】
- ・多門二郎〔明治一一 1878～昭和九 1934〕「凱旋後の所感 (5:26)】
- ・野間清治〔明治一一 1878～昭和一一 1936〕「武道の徳 (3:54)】「私の抱負 (2:06)】
- ・間部詮信〔明治一一 1878～昭和三五 1958〕「大行天皇の御幼時を偲び奉りて (4:49)】

- ・岸本綾夫〔明治一二 1879～昭和一一 1936〕「昭和十八年武装の春 (3:18)】
- ・秦真次〔明治一二 1879～昭和二五 1950〕「弥マコトの道に還れ (6:10)】
- ・松岡洋右〔明治一三 1880～昭和一一 1936〕「青年よ起て (5:49)】「日本精神に目覚めよ (30:25)】
- ・桜内幸雄〔明治一三 1880～昭和一一 1936〕「総選挙ニ際シテ (5:23)】
- ・米内光政〔明治一三 1880～昭和二三 1948〕「政府の所信 (9:03)】
- ・林桂〔明治一三 1880～昭和三五 1961〕「徴用者代表宣誓・社長林桂挨拶 (5:55)】
- ・永井柳太郎〔明治一四 1881～昭和一九 1944〕「普通選挙論 (11:45)】「第二維新の理想 (12:51)】「正シキ政党ノ進路 (6:29)】「独善内閣勝つか国民大衆勝つか (5:43)】「強く正しく明るき日本の建設 (5:35)】「通信従業員諸君に告ぐ (6:54)】
- ・秋田清〔明治一四 1881～昭和一九 1944〕「皇軍感謝決議趣旨弁明 (1:30)】
- ・森恪〔明治一五 1882～昭和七 1932〕「日本外交は何処へ行く (3:47)】
- ・山道襄一〔明治一五 1882～昭和一一 1936〕「地方政戦に直面して (7:17)】
- ・鳩山一郎〔明治一六 1883～昭和三四 1959〕「犬養内閣の使命 (4:32)】
- ・東條英機〔明治一七 1884～昭和二三 1948〕「皇軍感謝決議に対する東條陸軍大臣謝辞 (2:22)】「東條陸軍大臣閣下御訓示 (6:37)】「大詔を拝し奉りて (7:16)】
- ・田澤義鋪〔明治一八 1885～昭和一九 1944〕「国家の為に我々の為に (3:28)】「選挙の真精神 (6:06)】
- ・中野正剛〔明治一九 1886～昭和一一 1936〕「総選挙と東方会 (11:34)】「米英撃滅を重点とせよ (6:24)】「国民的政治力を集結せよ (7:00)】
- ・重光葵〔明治二〇 1887～昭和二三 1948〕「重光総裁 (6:39)】
- ・菊池寛〔明治二一 1888～昭和二三 1948〕「文芸と人生 (6:17)】
- ・賀川豊彦〔明治二一 1888～昭和三五 1960〕「恋愛と自由 (6:51)】
- ・麻生久〔明治二四 1891～昭和一一 1936〕「新体制準備委員会委員の言葉 (2:33)】
- ・近衛文麿〔明治二四 1891～昭和二〇 1945〕「新東亜の建設と国民の覚悟 (13:44)】「時局に処する国民の覚悟 (17:01)】「日独伊三国条約締結に際して (10:25)】
- ・平出英夫〔明治二九 1896～昭和二三 1948〕「護国の神『特別攻撃隊』 (25:34)】「提督の最期 (33:40)】
- ・丸山定夫〔明治三四 1901～昭和二〇 1945〕「あの旗を射たせてください (3:18)】「きこえる (3:17)】
- ・竹脇昌作〔明治四三 1910～昭和三四 1959〕「居庸関の激戦 (2:58)】「空軍の華梅林中尉 (2:34)】「一億起てり (6:21)】「労働組合の目的 (3:47)】「組合の方針や動かし方を本当に決める一般組合員の力 (3:50)】
- ・和田信賢〔明治四五 1912～昭和二七 1952〕「母の勝利 (6:56)】

その他、講演者の生没年が不明の分

- ・古田中 博「東郷元帥 (6:38)」
- ・成瀬達「創業五十周年に際して (3:17)」「我等の信条 (3:21)」「二十億円達成に際して (3:23)」
- ・鈴木珪寿「豊島高等女学校校長・鈴木珪寿先生講話 (6:10)」
- ・橋本郷見「不動心 (6:30)」

(以上)

——横浜国立大学教授——

(2014年9月9日 第1稿受理)

(2015年1月19日 最終稿受理)